

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 9 月 1 日現在

機関番号：33606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K11933

研究課題名(和文) TSASを用いたティーチングスタイルの日米比較研究

研究課題名(英文) Comparing of Teaching Style Assessment Scale in Japan and the USA

研究代表者

吉田 文子 (Yoshida, Fumiko)

佐久大学・看護学部・教授

研究者番号：80509430

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：米国の看護学教員71人と看護学以外の教員34人を対象に、The Teaching Style Assessment Scaleを用いたWeb調査を実施した。看護学教員と看護学以外の教員とでは、ティーチングスタイルに有意な差は認められなかった。日本の看護学教員には郵送調査で実施し、1261人の回答を分析した。日本の看護学教員と米国の看護学教員との間には有意な差があり、日本の看護学教員は、より教師中心なティーチングスタイルの傾向にあった。判別分析の結果、教師中心と学習者中心の主な違いは「個別化」であり、学習者中心の教員は「個別化」を受け入れ、教師中心の教員は「個別化」を拒否していると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教育パラダイムの転換により、学習者中心の授業実践への取り組みが増加にある。しかしながら教員の教育観が変化しなければ、どんな手法を使おうとも学習者中心の授業は難しく、その効果は得難い。教育観を可視化することは難しいが、その教育観に近いものとしてティーチングスタイルがある。本研究において、米国教員のティーチングスタイルや日本の看護学教員におけるティーチングスタイル(教師中心か学習者中心か)の主な違いを明らかにしたことは、学習者中心の授業に向けたFDへの一資料となる。

研究成果の概要(英文)：In the United States, a web-based survey using The Teaching Style Assessment Scale was administered to 71 nursing faculty and 34 non-nursing faculty. No significant differences in teaching style were found between the nursing and non-nursing faculty. The survey was administered by mail to nursing faculty in Japan, and 1261 responses were analyzed. There were significant differences between the Japanese nursing faculty and U.S. nursing faculty, with the Japanese faculty tending toward a more teacher-centered teaching style. A discriminant analysis found that the primary difference between teacher-centered and learner-centered styles is "Individualization," which is a dynamic condition that energizes the learner to take an active role in personalized learning. Learner-centered teachers embrace Individualization while teacher-centered instructors reject it.

研究分野：看護教育学

キーワード：ティーチングスタイル

## 1. 研究開始当初の背景

看護職育成は、専門学校から学士課程へ移行、教育パラダイムから学習パラダイムへの転換の両面から「学習者中心の授業」実践への取り組みが増加にある。しかしながら教師がもつ教育観が変化しなければどんな手法を使おうとも学習者中心の授業は難しく、その効果は得難い。現状では、教師が授業を評価する際、学生からの評価が主となることが少なくなく、教師自身で授業を教育観の観点から評価する尺度はない。教育観に近いものとしてティーチングスタイルがある。これは、「教師がある特定の価値基準にそっての振る舞い方」であり、2つのスタイル「学習者中心」と「教師中心」がある (Conti, 1989)。「ティーチングスタイル測定尺度, Teaching Style Assessment Scale, TSAS」は、米国で30年前に Gary Conti (教育学博士) がアンドラゴジーモデルをベースに開発した Principles of Adult Learning Scale [PALS]を基に、著者らが Dr. Conti と日本で共同開発 (2014年) した尺度であり、日本語あるいは英語で使用できるようになっている (Yoshida, et al., 2014)。

そこで、この TSAS を用いて、米国の看護学・看護学以外の教員のティーチングスタイルを測定し、その結果と日本の看護学教員とのティーチングスタイルの相違を明らかにし、学習者中心の授業に向けた一資料とする。また、TSAS の国際比較は、日本で開発の TSAS の有用性、汎用性をより高め、本尺度が国際的にも有用なものとなることが期待できる。

## 2. 研究の目的

本研究では、著者らが開発した TSAS を用いて、米国と日本の教員のティーチングスタイルを比較検討し、学習者中心の授業に向けた FD への基礎資料の提供を目的とする。

## 3. 研究の方法

1) 対象: 対象者は、米国の看護学教員、米国の看護学以外の教員、日本の看護学教員とした。

2) 方法: 米国調査は Web 調査、日本国内調査は紙面調査による無記名自記式質問紙調査とした。

調査期間は、は 2017 年 2 月~2017 年 6 月 (延長申請承認、2018 年 12 月まで)、は 2017 年 9 月~11 月であった。

調査は、TSAS (30 項目) について実施した。

TSAS (Teaching Style Assessment Scale) は、成人教育の文献に記載されている教授・学習の原則の実践について測定する 30 項目の総和評価尺度である。TSAS は 6 段階のリッカート尺度を使用し、スコアは 0 から 150 の範囲となる。TSAS の平均は 81 で、標準偏差は 15 である。平均 81 点以上は学習者中心の傾向を示し、81 点以下は教師中心のアプローチを支持することを意味する。質問項目 30 には、尺度の精度をあげるために黙従傾向の回避として逆転項目 (4, 6, 10, 13, 20, and 21) が設定されている。回答肢は、5-いつもする、4-たびたびする、3-時々する、2-あまりしない、1-殆どしない、0-しないであり、欠損値には本尺度の指示に従い 2.5 を代入した。

3) 分析: TSAS 結果からみた米国の看護学教員と米国の看護学以外の教員との比較検討には、t Test を用いた。次に日本の看護学教員と米国の看護学教員との TSAS 結果を比較検討には、One Sample t Test を用いた。最後に日本の看護学教員の学習者中心と教師中心の違いを Discriminant analysis によって明らかにした。

4) 倫理的配慮

本研究は、佐久大学研究倫理委員会の承認を受け実施した [ 承認番号 20160006 ]。

#### 4 . 研究成果

##### 1 ) 米国調査の結果

米国教育者らの協力を経て、米国内の看護学教員 ( Nursing ) と看護学以外の教員 ( Non-Nursing ) に TSAS の Web 調査を実施。回収 117、有効回答 105 ( 89.7% ) であった。内訳：Nursing が 71、Non-Nursing が 34 であり、教育経験年数は、Nursing と Non-Nursing とともに 17 年以上と 10 年 ~ 13 年が多かった ( 表 1 , 表 2 )。Non-Nursing の専門領域については、教育関連が 6、文科系 15、自然科学系が 13 であった。

TSAS ( 30 項目、Range 0-150 ) の総得点をみると、Nursing は 95.39 ( 18.6 )、Non-nursing は 100.09 ( 18.3 ) であり、正規分布していた。Nursing と Non-nursing には有意差は見られなかった (  $t=-1.22, df=103, p=.23$  ) ため、下位尺度 5 因子について分析を進めた。「4. Learner-Centered Activities ( 学習者中心の手法 )」においてのみ有意差がみられた (  $t=3.251, df=103, p=.002$  )、Nursing 16 ( 3.8), Non-nursing 19 ( 4.6 ) ( 表 3 )。これらから、米国内の看護学教員と看護学以外の教員とでは、ティーチングスタイルに有意な違いはないものの、学習者中心の手法を重視するかどうかの違いがあると考えられた。

表 1 米国の看護学教員と看護学以外の教員の比較 N = 105

	Nsg.	Non Nsg.	t	df	p	Mean Difference	Std. Error Difference	interval of the	
	n=71	n=34						Lower	Upper
Mean (SD)	95.39(18.6)	100.088(18.31)	-1.22	103	0.23	-4.69	3.86	-12.35	2.96

表 2 米国教員の教育経験年数

	Nsg.		Non Nsg.		Total
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)
Years of teaching experience					
1-3	9(12.7)	4(11.8)	13(12.4)		
4-6	9(12.7)	8(23.4)	17(16.1)		
7-9	9(12.7)	2(5.9)	11(10.5)		
10-13	16(22.5)	9(26.5)	25(23.8)		
14-16	5(7.0)	2(5.9)	7(6.7)		
over 17	23(32.4)	9(26.5)	32(30.5)		
Total	71(100)	34(100)	105(100)		

表 3 米国の看護教員と看護学以外の教員の比較：各因子

Factor	Nsg.		Non Nsg.		t-test		
	Mean	SD	Mean	SD	t	df	p
1 Participation in the Learning Process	25	8.7	28	9	-1.39	103	.169
2 Relating to Experience	19	4.6	18	5.7	-6.54	103	.517
3 Create Learning Climate	24	4.6	25	3.8	-.516	103	.607
4 Learner-Centered Activities	16	3.8	19	4.6	-3.25	103	.002
5 Personalizing Instruction	12	3.3	11	4.4	1.09	103	.278

##### 2 ) 国内調査

調査協力があつた 265 校へ調査票 2,595 枚を配布し、返送があつた 1261 人 ( 有効回答率 49.0% ) を分析対象とした。TSAS ( 30 項目、Range 0-150 ) の総得点の平均値は 86.04 ( 14.6 ) であつた。看護専門学校が 84.84 ( 13.95 )、看護系大学が 88.00 ( 15.34 ) であつた ( 表 4 )。教育経験年数は、17 年以上と 10 年 ~ 13 年が多く、これは米国の教員の教育経験年数と酷似していた ( 表 5 )。

表4 日本の看護学教員のTSAS N=1,261

所属先	Mean	n	SD
看護専門学校	84.84	783	13.95
看護系大学	88.00	478	15.34
Total	86.04	1261	14.57

表5 日本の看護学教員の教育経験年数

	看護専門学校		看護系大学		Total			
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)		
教育経験年数	1-3	129(16.5)	17(3.6)	146(11.6)	4-6	136(17.3)	47(9.8)	183(14.5)
	7-9	114 (14.6)	66(13.8)	180(14.3)	10-13	144(18.4)	123(25.7)	267(21.2)
	14-16	83 (10.6)	71(14.9)	154(12.2)	17年以上	177(22.6)	154(32.2)	331(26.2)
	Total	783(100)	478(100)	1261(100)				

表6 米国の看護学教員と日本の看護学教員との比較

	米国看護学教員		日本看護学教員		t	df	p	Mean Difference	Std. Error Mean	interval of the	
	n=71	n=1261								Lower	Upper
Mean (SD)	95.39(18.6)	86.04(14.57)	-22.799	1260	0.001	-9.3523	0.41	-10.157	-8.548		

One-sample t test 検定値には米国看護学教員平均値95.39を投入

つぎに、日本の看護学教員のティーチングスタイルにおける教師中心と学習者中心の違いを説明する変数を明らかにするために、判別分析を行なった。TSASの平均は81で、標準偏差は15である。平均81点以上は学習者中心の傾向を示し、81以下は教師中心のアプローチを支持することを意味する。そのため、グループ分けには、TSASの平均値より2標準偏差以上低い人(51以下)、平均値より2標準偏差以上高い人(111以上)を用いた。これらのグループは、自分の教え方に対するこだわりが最も極端であることを表している。グループ分けの的中率は100%であることを確認した(表7)。次に、構造行列を使い、項目の相関をみたところ、0.2以上の相関は8項目であった(表8)。これらの項目を総合すると、「個別化」という概念を命名することができる。

全体として、教師中心と学習者中心の主な違いは「個別化」であった。個別化とは、学習者がよりよい人間になるために、成長に焦点をあて、学習で積極的な役割を果たすよう学習者を活性化させる動的条件であり、学習者を白紙の状態にして学習に臨ませるという考えを否定するものでもある。学習者中心の教員は「個別化」を受け入れ、教師中心の教員は「個別化」を拒否する。日本の看護学教員は、個別化をより認識できるように教育パラダイム(ものの見方、考え方)を転換させる必要がある。教育観が変化するように、ティーチングスタイルもまた固定的なものではない。このTSASが、教育アプローチの自己評価として断続的に使用されることを期待する。

以上

表7 Discriminant Analysis によるグループ分類

Group	Predicted Group TSAS score		Total (%)
	Teacher-Centered	Learner-Centered	
Teacher-Centered (51and Below )	22	0	22
Learner-Centered ( 111and Above)	0	46	46
Percent of Placement			
Teacher-Centered	100	0	100
Learner-Centered	0	100	100

判別の中率100%

表8 教員中心と学習者中心のティーチングスタイルを区別するTSASの項目

Structure Matrix Corr.	No	Item	Mean for Item	
			Group_22	Group_46
0.309	26	I have my students identify their own problems that need to be solved. 解決が必要な学生自身の問題を学生自身で明確にできるようにする	0.682	4.457
0.256	18	I help my students develop short-range as well as long-range objectives. 学生が長期的目標と短期的目標を設定できるように手助けする	0.500	3.957
0.235	25	I allow a student's motives for participating in continuing education to be a major determinant in the planning of learning objectives. 継続教育への動機を基にして、学生自身で学習目標を立てられるようにする	0.909	4.326
0.230	17	I let each student work at his/her own rate regardless of the amount of time it takes him/her to learn a new concept. 新しい概念を学生一人ひとりのペースで学べるようにする	0.455	3.609
0.227	27	I organize adult learning episodes according to the problems that my students encounter in everyday life. 授業は、学生が日々直面しやすい問題を考慮して組み立てる	1.409	4.696
0.223	22	I plan activities that will encourage each student's growth from dependence on others to greater independence. 学生の自立を促すような活動を計画する	1.682	4.674
0.219	23	I gear my instructional objectives to match the individual abilities and needs of the students. 学生一人ひとりの能力や必要に応じて指導目標を変える	0.591	4.217
0.204	12	I encourage dialogue among my students. 学生間の対話を勧める	1.955	4.804
			1.023	4.343

文献

Conti, J. (1989). Assessing teaching style in continuing education. In E. R. Hayes (Ed.), *Effective teaching style*, 90-95. Pennsylvania State University, University Park.

Yoshida, F., Conti, G. J., Yamauchi, T., & Iwasaki, T. (2014). Development of an instrument to measure teaching style in Japan: The Teaching Style Assessment Scale. *Journal of Adult Education*, 43(1), 11-18.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Fumiko Yoshida, Toyoaki Yamauchi, & Misa Kawanishi
2. 発表標題 Comparing Teaching Styles Using the Teaching Style Assessment Scale in Nursing Faculty and Non-nursing Faculty
3. 学会等名 18th Hawaii International Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山内 豊明  (Yamauchi Toyoaki)  (20301830)	放送大学・教養学部・教授    (32508)	
研究分担者	川西 美佐  (Kawanishi Misa)  (80341238)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・教授    (35414)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------